

オルガノ株式会社 個人投資家向け会社説明会資料

(証券コード：6368)

2025年8月20日

目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方
5. ご参考資料

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方
5. ご参考資料

会社概要

会社概要

本社所在地	東京都江東区新砂1丁目2番8号
設 立	1946年5月1日
資本金	8,225 百万円
従業員数	2,660名 (連結 2025年3月31日現在)

社名の由来



当社の基幹材でありますイオン交換樹脂は、天然産の無機ゼオライトに対して、**有機ゼオライト（オルガニックゼオライト）**、略名**【オルガノライト】**と呼ばれており、これが社名の由来です。

創業の経緯

長野県諏訪市で創業。

日本初のイオン交換装置を主要営業品目とする企業として発足。

戦後の復興と日本経済の再建に伴う産業界からのさまざまな要請に応えて、研究や装置の開発に注力し、水処理、糖類精製などの分野で実績を築いてきました。

シンボルマークの由来



水、空気、大地（地球）は人間（生物）が生きていくためのもっとも重要な三要素と言われています。当社のシンボルマークはこの水、空気、地球を表したものです。

オルガノの事業構成

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業

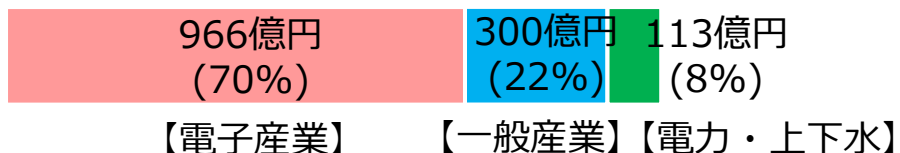


設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型機器・機能材事業



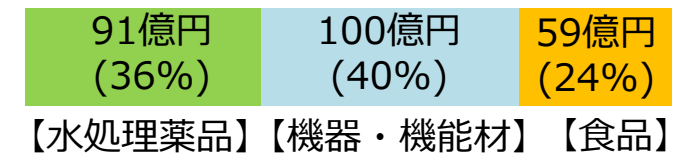
純水・超純水製造装置
フィルタ
機能材（分離精製材）

| 食品事業

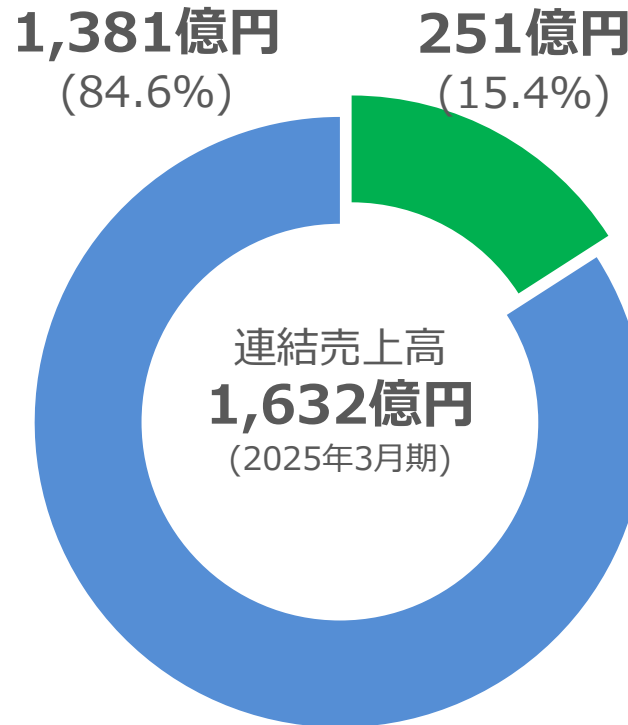


食品添加剂・加工剤
食品素材

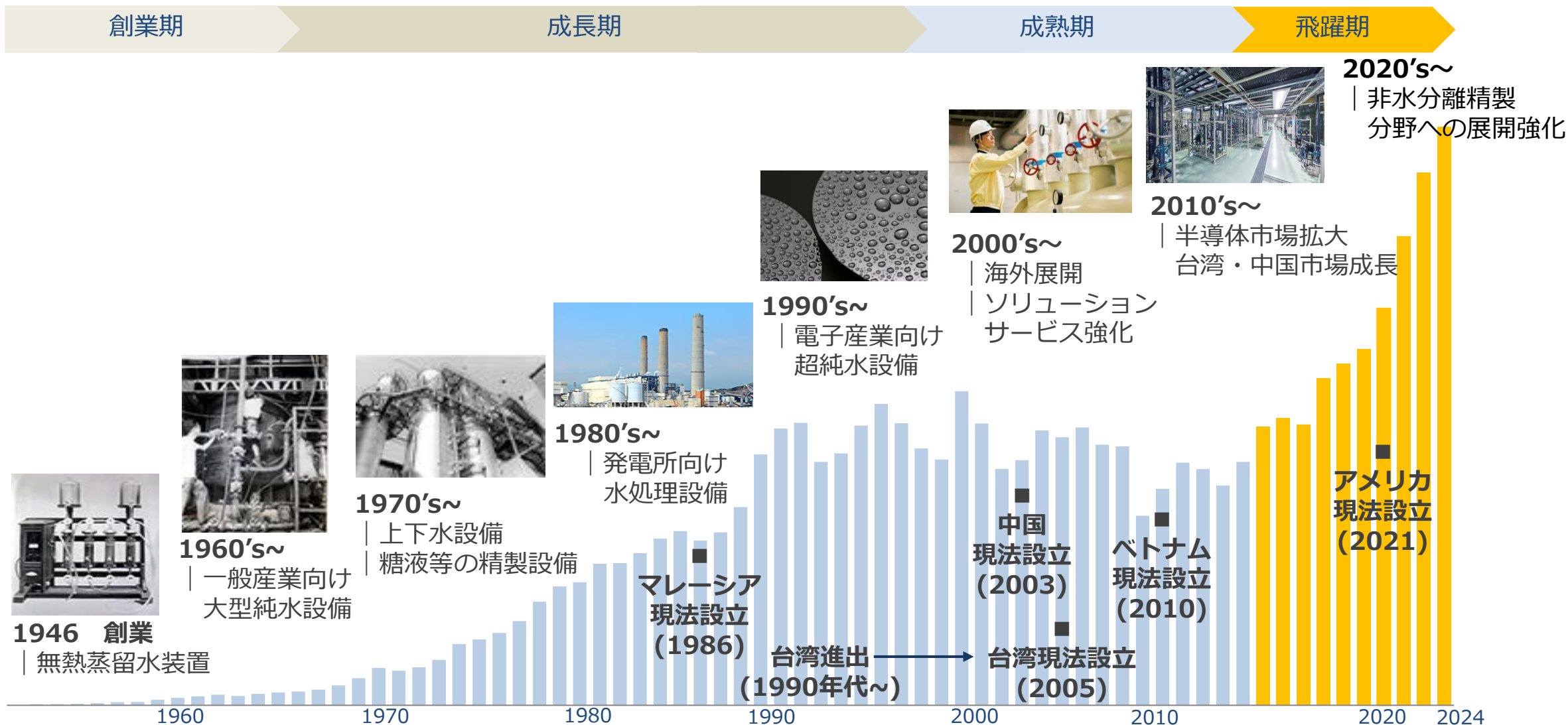
| 事業別売上高



※金額は25.3期売上高、%は売上構成比率

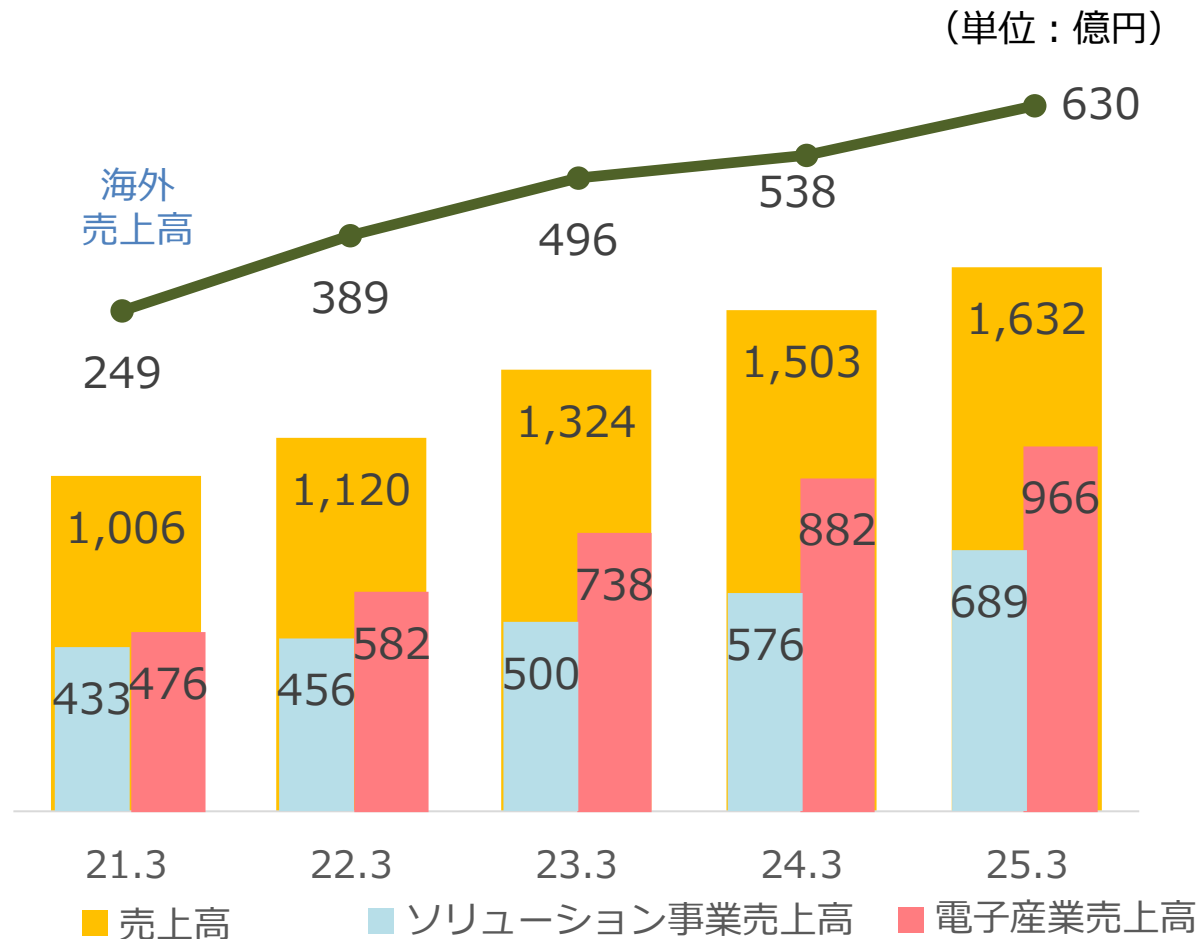


オルガノの歩み (グラフは売上高推移)



直近の業績拡大の背景

業績の推移



主要背景

電子産業分野の伸長

2018年以降の半導体市場の伸びを背景に当社業績も伸長。
引き続き国内外の電子産業分野向けを中心とした成長が続くものと期待。

台湾・中国など海外市場の拡大

地域別では台湾・中国市場が大きく成長。
ファウンドリーやメモリなど各種半導体分野の投資が拡大。

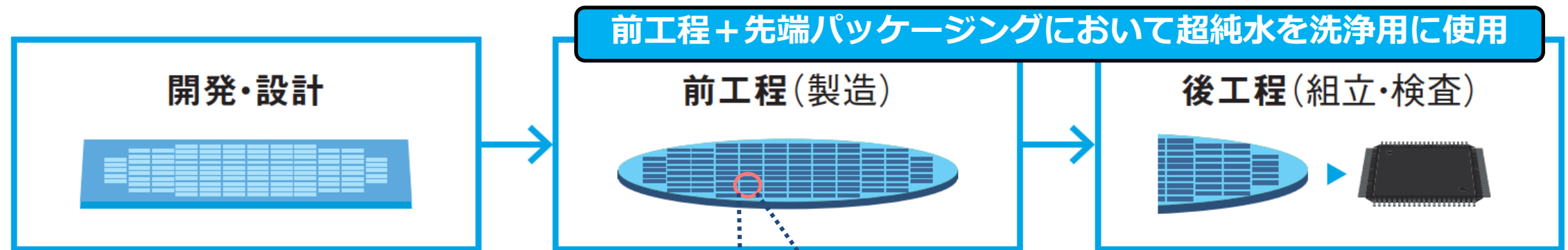
ソリューション事業の拡大

メンテナンスの順調な増加や設備保有型案件が拡大。

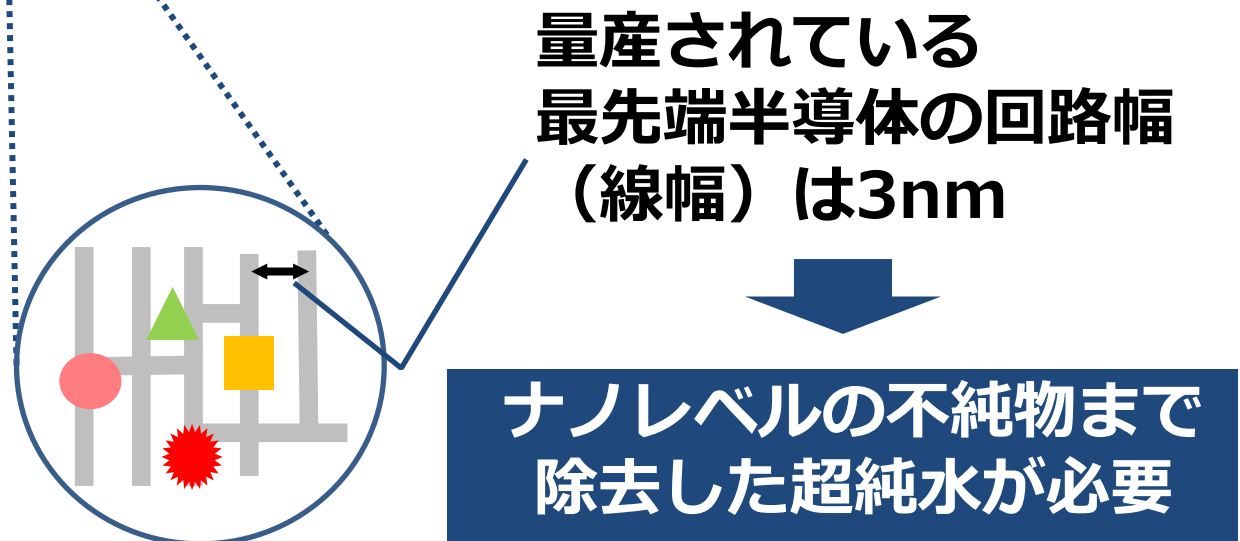
目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方
5. ご参考資料

半導体製造工場向け超純水



半導体市場予測 (WSTS予測より当社想定)



国内最先端半導体工場向けプロジェクト紹介



- ・最先端ロジック
半導体製造工場(2nm)
- ・当社は超純水、排水処理、
排水回収のための各設備納入と
運転管理、メンテナンスまで
包括的に対応



高度分離精製事業

用途例

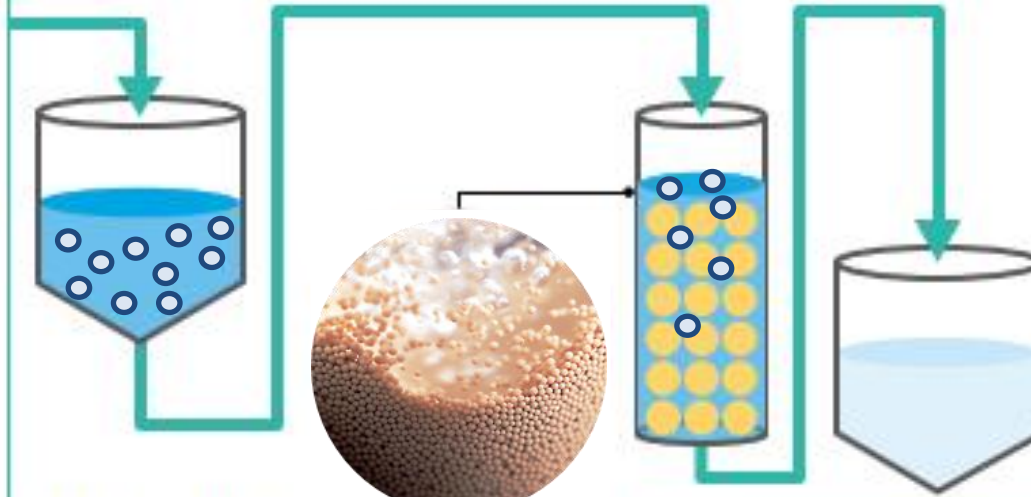
電子材料

有機系：

フォトレジスト、
溶媒など

無機系：

CMP 材料、
過酸化水素など



超高純度イオン交換樹脂

高度精製電子材料

半導体前工程で
使用される
電子材料を精製

リチウムイオン
電池製造材料の
回収

- **イオン交換** や **ろ過** などの水処理技術を応用
- 薬液・溶媒など**水以外の液体**を高度分離・精製

目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方
5. ご参考資料

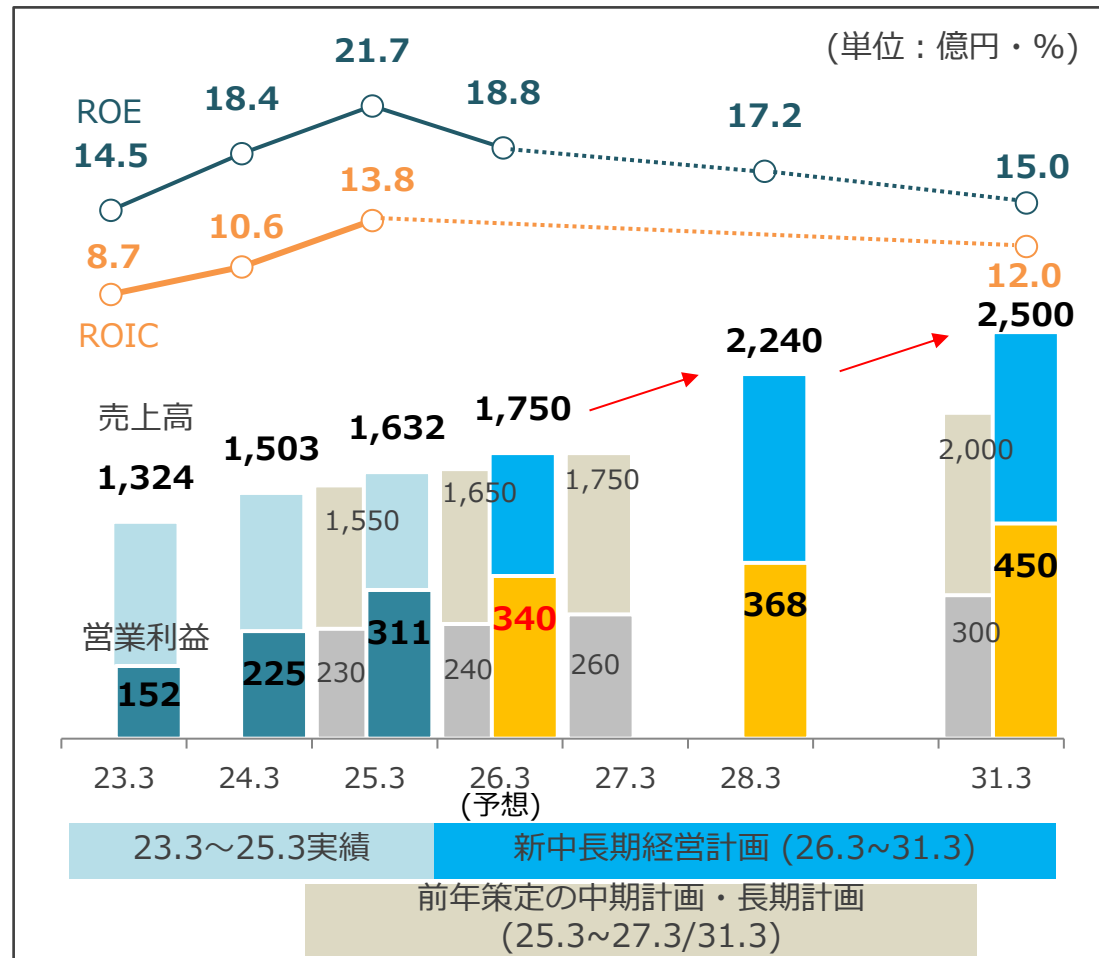
25年3月期実績・26年3月期業績予想の概要

(単位：百万円)	25.3期実績	前期比	(単位：百万円)	26.3期予想 (2025.8.4修正)	前期比
受注高	151,272	6,804 4.7%	受注高	180,000	28,728 19.0%
売上高	163,269	12,913 8.6%	売上高	175,000	11,731 7.2%
営業利益	31,120	8,576 38.0%	営業利益	34,000	2,880 9.3%
%	19.1%	4.1pt	%	19.4%	+0.3pt
ROE	21.7%	3.3pt	ROE	20.1%	-1.6pt

受注高	電子産業分野で台湾向けが大きく伸長も、日・中・東南アジアで想定より顧客投資計画に遅れあり	日・台・米・欧で大型の半導体案件を複数受注する計画。米国の関税政策の動向を注視
売上高	ソリューションや機能商品の好調な推移に加え、大型案件続くプラントが伸長	プラント案件の工事進捗に加え、ソリューション・機能商品の売上拡大を計画
営業利益	売上拡大の効果に加え、良好な受注環境を背景にプラント案件などの利益率改善が寄与	人件費などを中心に販管費の拡大を想定。売上拡大によって前期並の利益水準を確保する計画

中長期計画：計画の概要

中長期計画の目標値



ORGANO2030達成目標 (2031.3期)

売上高

2,500億円以上
(25.3~31.3 CAGR 7%以上)

営業
利益率

15~18%
15%以上を必達目標として
18%以上を目指す

ROE

15%以上
成長スピードの鈍化もあり低下を
想定も安定的に15%以上を維持

ROIC

12%以上
売掛債権・棚卸資産など運資本
の効率化を進め12%以上を継続

※ROICはNOPAT（税引後営業利益）÷ 投下資本（売掛債権＋棚卸資産＋設備保有型関連資産・固定資産）で計算

中長期計画：課題と取組みの再整理

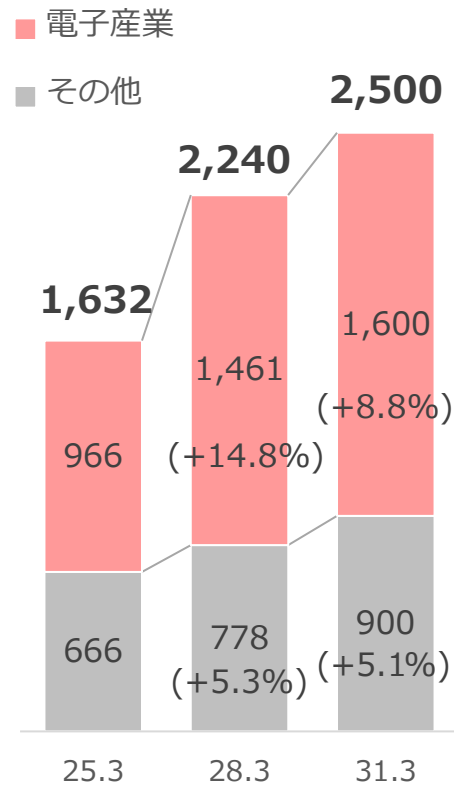


事業成長戦略：部門別計画

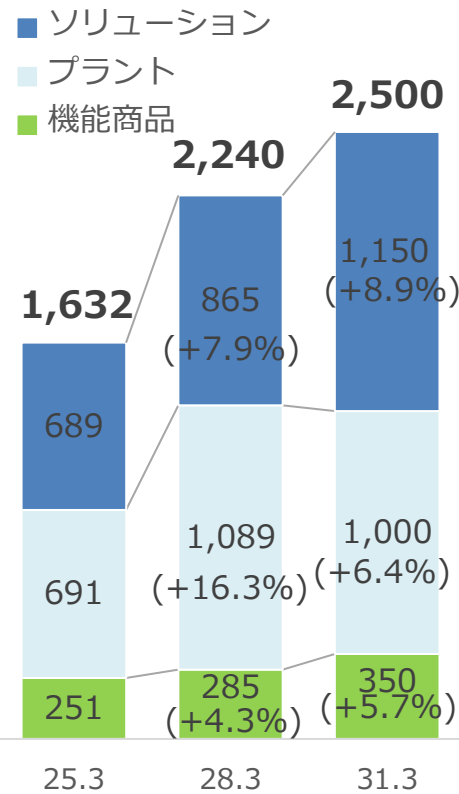
(単位：億円)

事業成長戦略

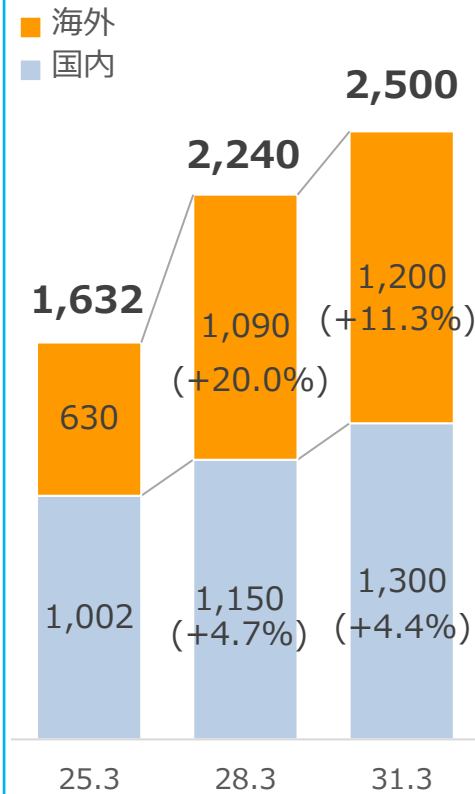
市場別売上高



事業分野別売上高



地域別売上高



半導体などの電子産業分野の事業拡大を成長ドライバに

省エネ・脱炭素・省力化など顧客の課題解決につながる提案力を強化し、ソリューション事業を拡大

グローバル展開
(韓国やインドなどへの展開も検討)

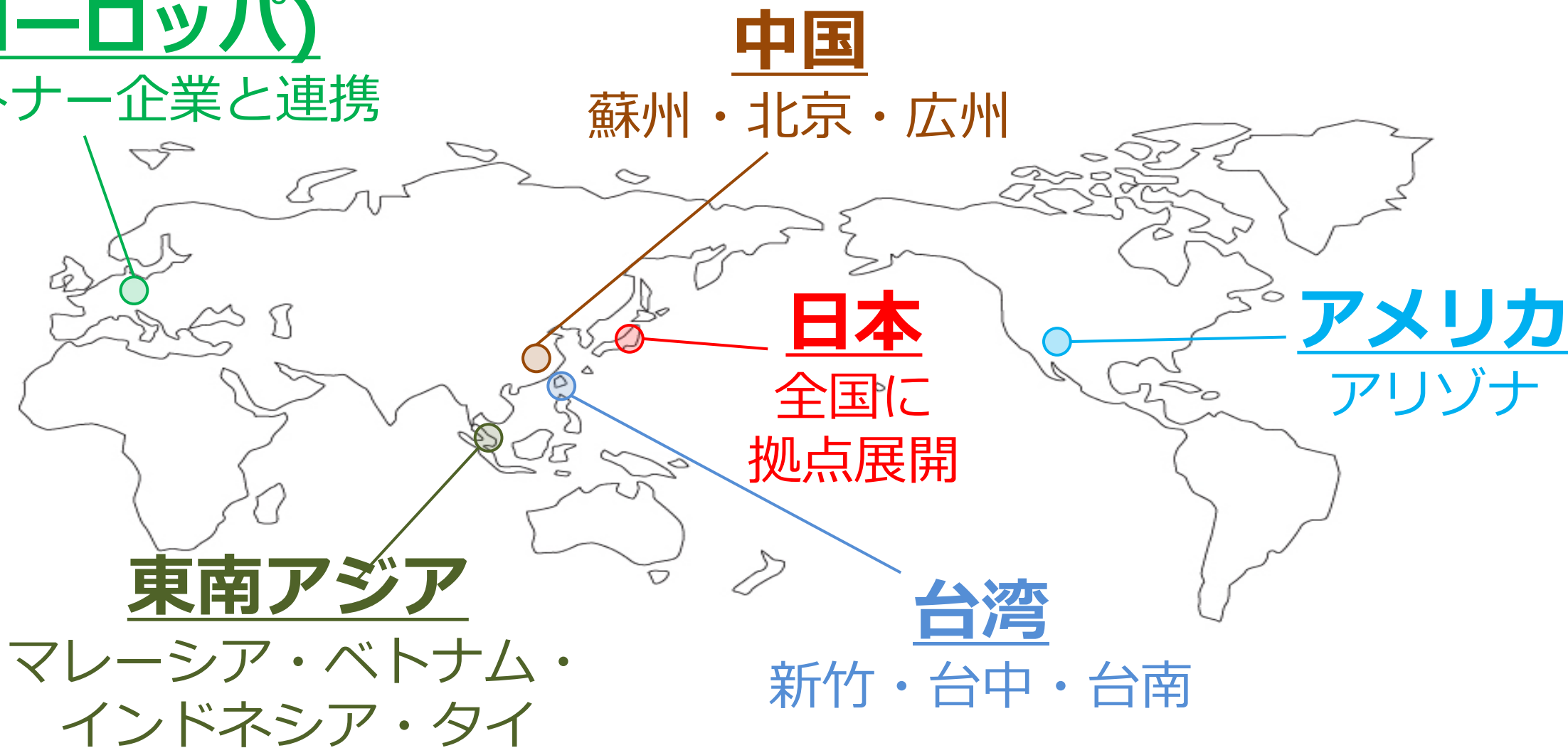
人員・投資のリソース配分や優先順位付けをより明確に

※ () 内はCAGR

グローバル展開

(ヨーロッパ)

パートナー企業と連携

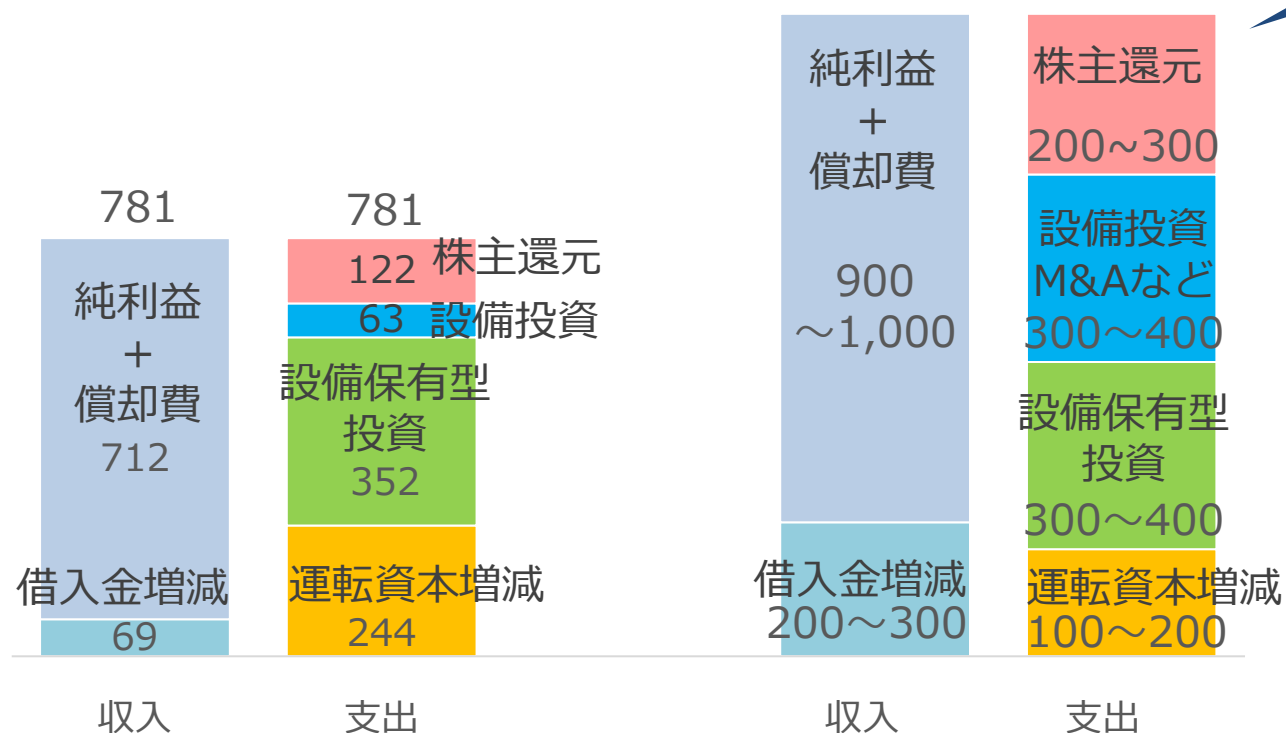


財務戦略：キャピタルアロケーション

23.3～25.3期実績

26.3～28.3期計画

(単位：億円)



25.3期比で人的投資, RD・DX投資
など戦略予算を約200億拡大

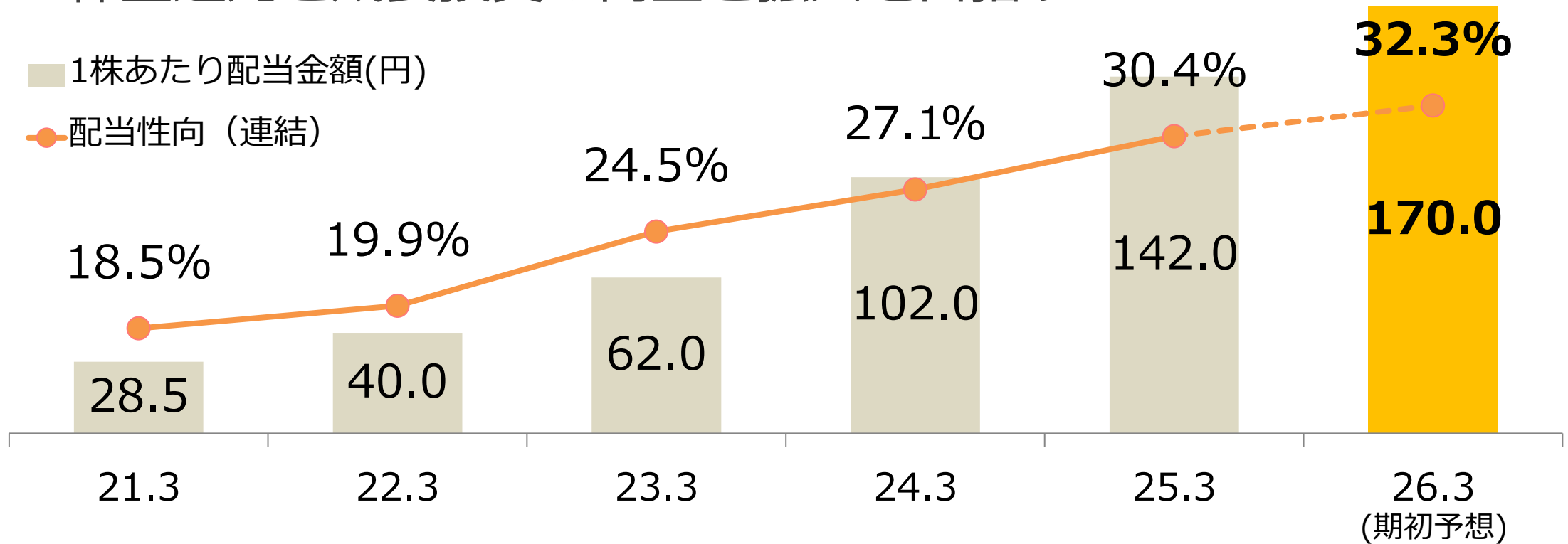
- 売上拡大や設備保有型サービスの回収本格化で収入増を想定。人件費やDX・RD投資や設備投資・M&Aなどの成長投資の積極的拡大を図る。設備保有型サービスへの投資も増加
- 運転資本は売掛債権や棚卸資産の効率化に取り組み、キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮化に取り組む。株主還元は増配・配当性向の改善を継続する

目 次

- 1． 会社概要
- 2． オルガノの技術と事業展開
- 3． 中長期経営計画について
- 4． 株価の動向と株主還元の考え方
- 5． ご参考資料

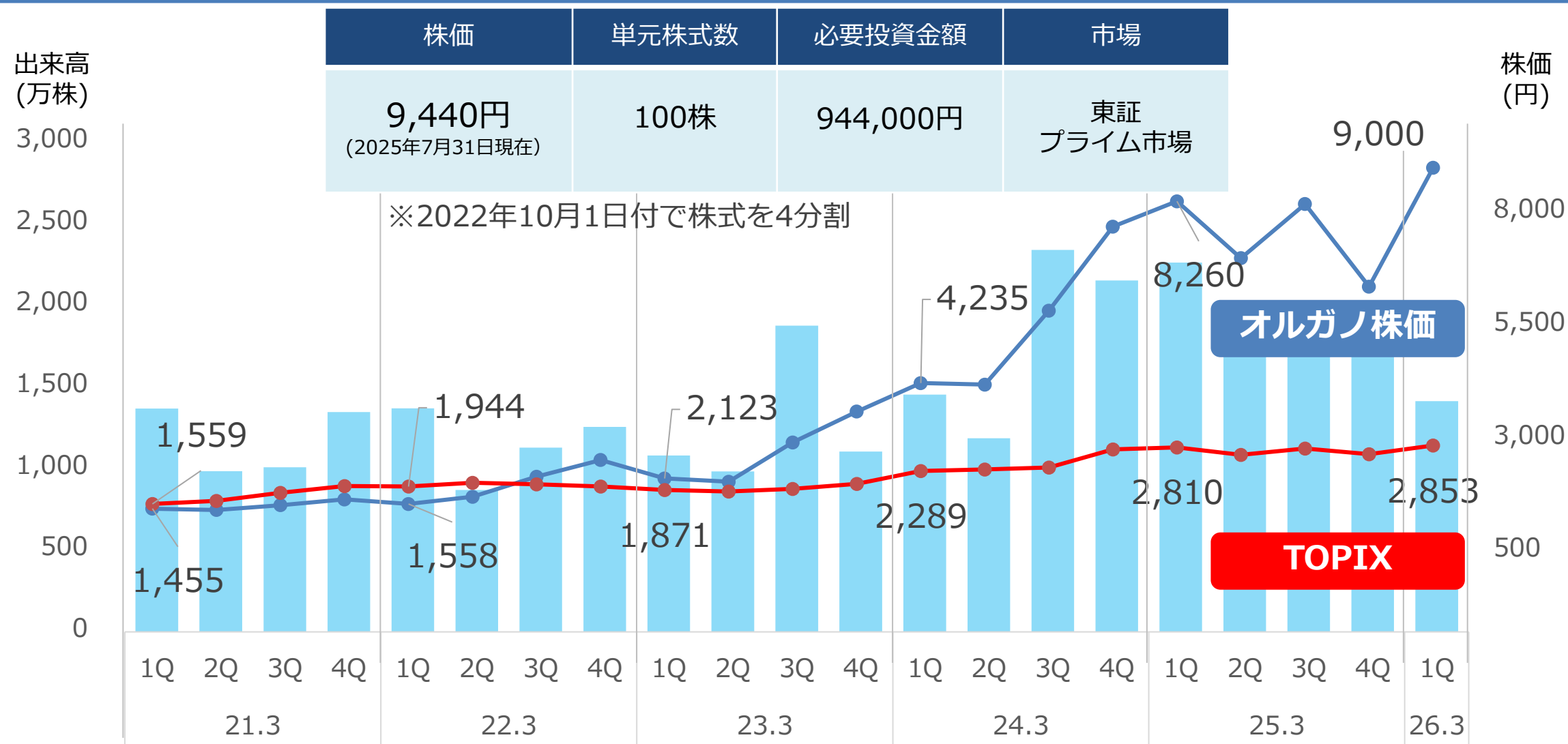
株主還元方針

- 配当性向30%以上の水準を維持しつつ、増配を継続
(12期連続増配予定[記念配を除く])
- 株主還元と成長投資の両立と拡大を目指す



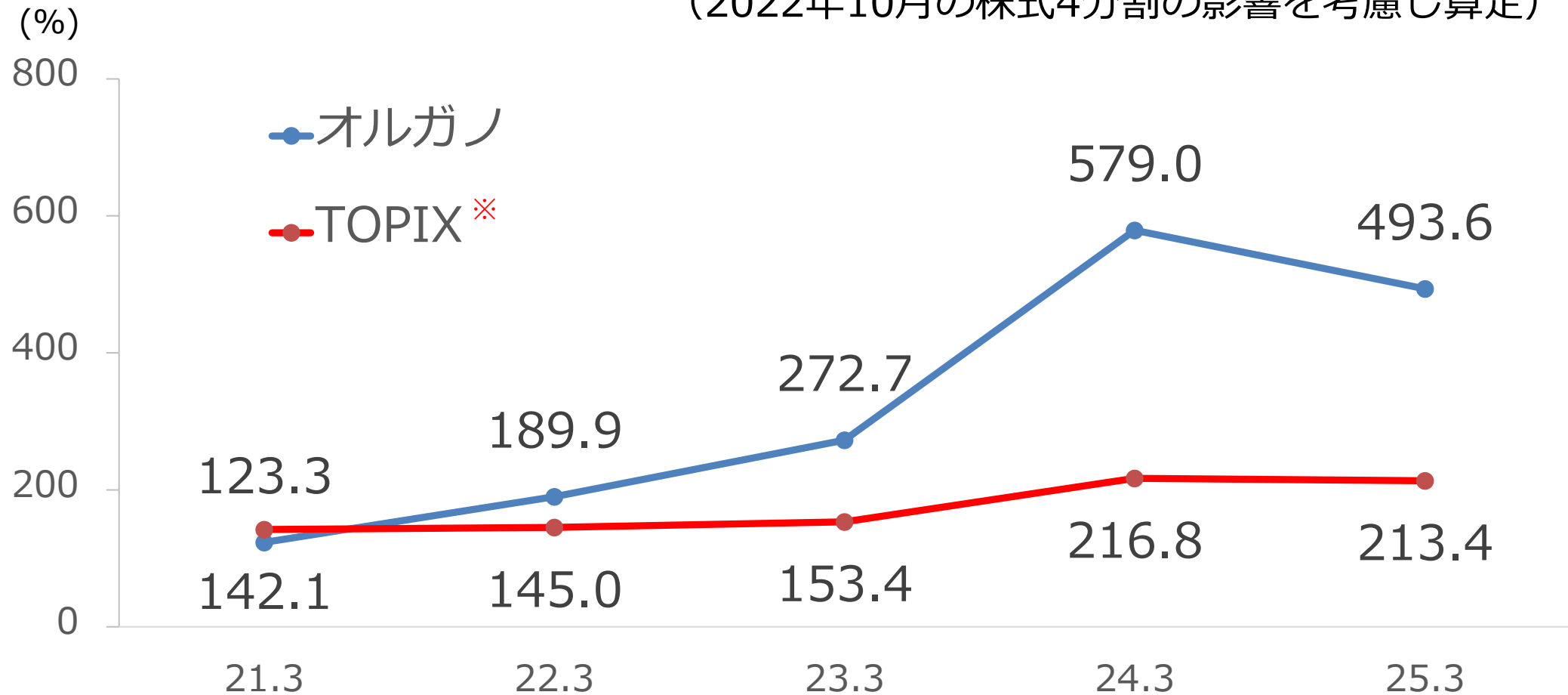
※配当金額は2022年10月1日付の株式分割後ベースで記載

オルガノ株価の動向



オルガノのTSR(株主総利回り)推移

- 株価上昇・増配継続でTOPIXを大きく上回る利回りを達成
(2022年10月の株式4分割の影響を考慮し算定)

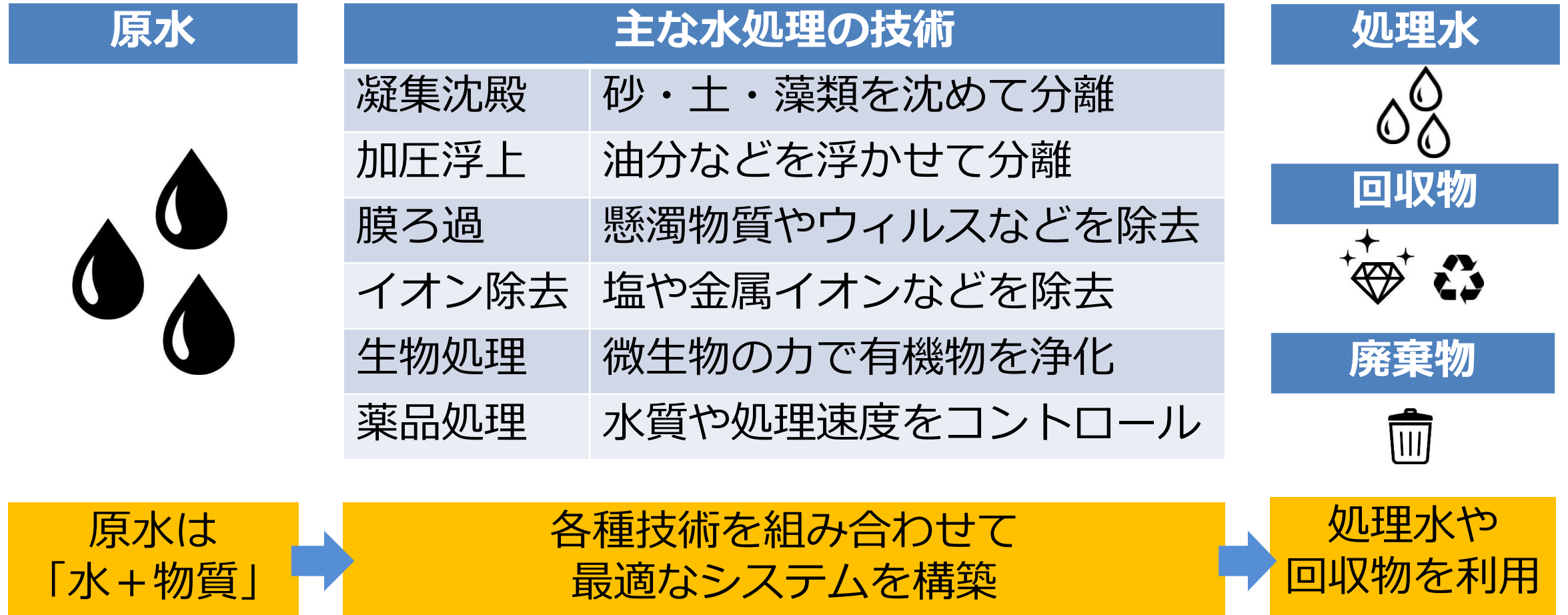


目 次

1. 会社概要
2. オルガノの技術と事業展開
3. 中長期経営計画について
4. 株価の動向と株主還元の考え方
5. ご参考資料

オルガノの技術

各種技術を組み合わせたシステムで必要な物質を分離・精製



純水・超純水とは

水中の成分・不純物を極限まで除去することで、
製品の歩留まり・品質向上、設備の安定運転などに貢献

■ 1ℓ 当たりの成分・不純物量比較



水道水の1/1億(0.000000003g)

水道水の1/10万(0.000003g)

(主な水処理技術)

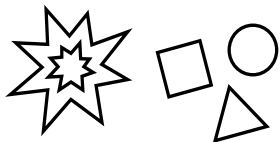
沈殿・砂ろ過処理

膜ろ過 (MF/UF) 処理

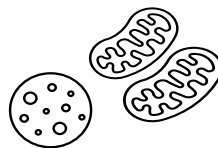
イオン交換樹脂・RO膜処理

- 半導体や電子部品等の洗浄
- 火力・原子力 発電タービン用水
- 医療・研究機関等での微量分析

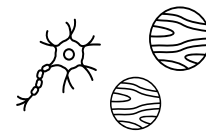
(主な成分・不純物)



懸濁質 (砂・粘土)
~1mm



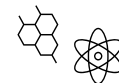
細菌・藻類
~1μm



ウィルス・微粒子
~30nm



パーティクル
~10nm



糖類・溶解塩類
~1nm

1μm=1千分の1mm

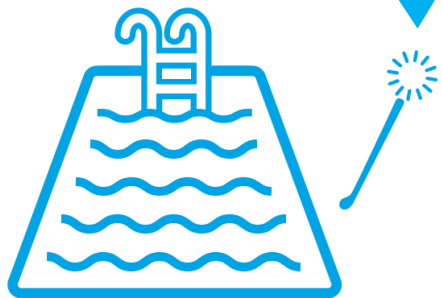
1nm=百万分の1mm

オルガノの3つの強み

高度な 分離精製技術と 分析技術

不要な成分を分離して除く

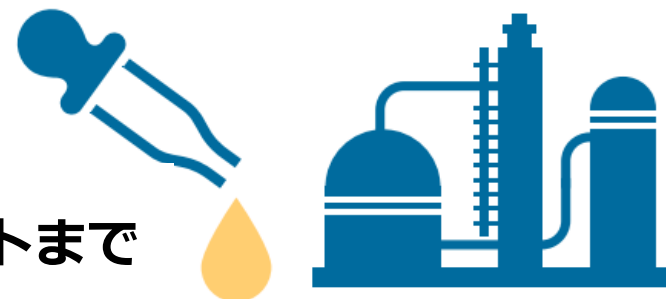
50mプールに耳かき1杯分



不純物濃度 1ppt以下

幅広い 対応 技術

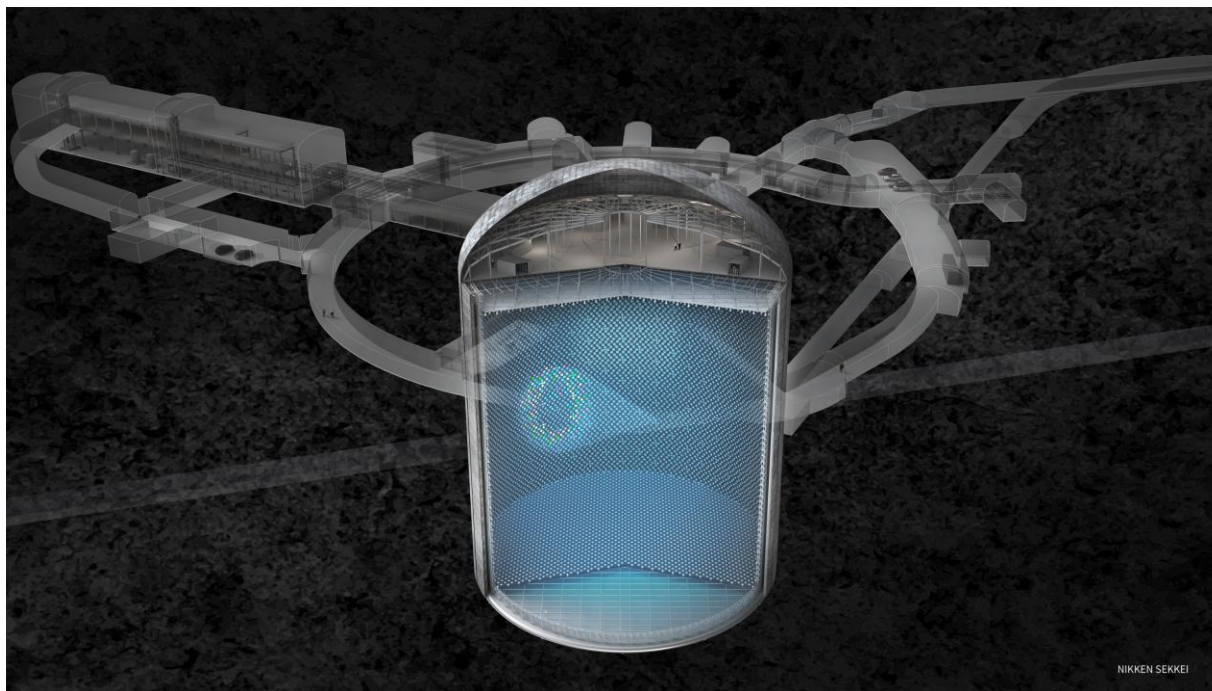
1滴から
大容量プラントまで



幅広い 実績



ハイパーカミオカンデ向け超純水装置



画像提供：東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設

ハイパーカミオカンデとは

2002年に東京大学の故小柴昌俊先生が、また、2015年には梶田隆章先生がノーベル賞を受賞するなど世界をリードする素粒子ニュートリノ研究、その観測施設の三代目(現在建設中)。ニュートリノ観測では、微弱なチェレンコフ光の正確な測定のために、極限まで磨き上げた「超純水」が用いられています。

オルガノの関わり

当社はスーパーカミオカンデに続き、2028年に完成予定のハイパーカミオカンデ向けの超純水設備を2024年に受注。当社の提供する設備から26万トンの超純水をハイパーカミオカンデに供給予定です。

株主構成・大株主の状況

大株主（上位10名）

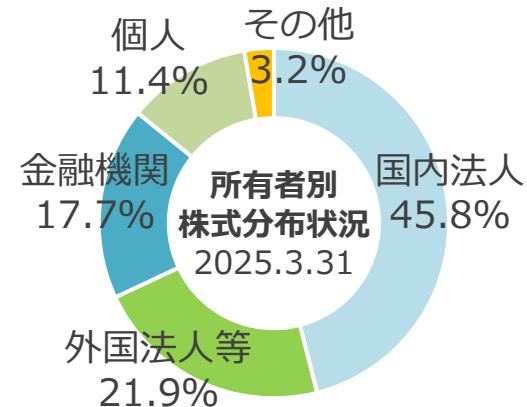
（2025年3月31日現在）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー（株）	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	4,607	10.01
（株）日本カストディ銀行（信託口）	1,867	4.06
KBC BANK NV – UCITS CLIENTS NON TREATY	1,011	2.20
（株）みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	407	0.88
JP MORGAN CHASE BANK 385781	373	0.81
JPモルガン証券（株）	359	0.78
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	356	0.77
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	349	0.76

※持株比率は自己株式(338千株)を控除して計算

株主構成

- ・発行可能株式総数 101,568千株
- ・発行済株式総数 46,359千株
（自己株式 338千株を含む）
- ・株主数 12,094名



●親会社の状況

当社の親会社である東ソー（株）とは1955年に資本参加を受け入れて以来の関係にあります。当社と東ソーとの営業取引関係については、一部原材料の仕入や水処理設備・薬品等の販売取引がありますが、取引の規模は小さく、両者が扱っている製品や取引先の点でも明確な棲み分けがなされております。

当社は上場会社として事業活動や経営判断において一定の経営の独立性が確保されているものと認識しており、親会社グループと少数株主間の利益相反問題を監視・監督するため、独立社外取締役のみで構成される特別委員会を設置するとともに、2023年6月開催の第78回定時株主総会以降、取締役会に占める独立社外取締役の比率を過半数にしております。

お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部 IRグループ

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。